



冬にしみじみと味わうクラシック♪

『はじめてのオーケストラ』 佐渡 裕原作/はた こうしろう絵
気持ちと繋がる音楽 (スタッフ・W)

音楽を読む

みーちゃんのお父さんは、オーケストラの指揮者で、みーちゃんをコンサートに招待してくれました。初めて聴くコンサートの演目は、ベートーベンの「第九」です。始まりは静かで繊細に、そしてだんだんと明るく、力強く、そしてまた優しくなって、最後は合唱団も加わり、あの有名な「歓喜の歌」が響き渡ります。各楽章のイメージが、絵で表現されていて、視覚でも楽しめるのは絵本ならではの。原作は、指揮者の佐渡裕さん。指揮者の役割や、オーケストラってこんな風に演奏するんだよ、ということもわかりやすく伝えてあります。本の中で、「第九」はすごく元気が出る曲と、お父さんが言っているのですが、確かに、「歓喜の歌」を聴くと、気持ちが鼓舞されるかのよう。自分の気持ちにピタリと合う音楽に出会えると、力をもらえる気がします。



『はじめてのオーケストラ』
佐渡 裕原作/はた こうしろう絵
出版社: 小学館
請求記号: E74/ハ
駅南図書館所蔵なし(市内所蔵あり)

ナクソスに
ログインして
アクセス!

「第九」で検索すると、589件がヒットします。様々なオーケストラ、指揮者で演奏されていますのでナクソスで色々聞き比べて自分のお気に入りを見つけてみるのもいいですね。

クラシックにふれよう

ツィゴイネルワイゼン パブロ・デ・サラサーテ
魅惑の旋律・ツィゴイネルワイゼン (スタッフ・I)

小さな、小さな、天才ヴァイオリニスト吉村妃鞠(ひまり)さんの名演奏で、近年世界中の音楽コンクールで話題を呼んでいる「ツィゴイネルワイゼン」をご紹介します。「ツィゴイネルワイゼン」は、スペインの著名なヴァイオリン奏者で作曲家でもあったサラサーテが1878年に作曲した代表的な作品です。ドイツ語でツィゴイネルが「ジプシー」、ワイゼンが「旋律」、なので題名である「ツィゴイネルワイゼン」は「ジプシーの旋律」を意味しています。こちらの作品は、いくつかのハンガリー民謡や大衆民謡が組み合わさった、協奏曲の三楽章に相当する三部で構成されています。

第一部は、管楽器による深刻な雰囲気から始まります。それは悲しげながらも堂々とした演奏です。第二部は独奏。ヴァイオリンが印象的な旋律を奏で、音階が急速に跳ね上がります。この楽章は「ジプシーの月」あるいは「ジプシーの歌」という別名で親しまれています。第三部は、テンポが一気に加速します。通常の右手のピッツィカート(ヴァイオリンの弦を指で弾くことによる演奏技法)と左手のピッツィカートを併用します。ヴァイオリンの技巧を誇示する部分が続き、一気に幕を閉じます。ハンガリーの感傷的な旋律や、歌うようなメロディは、きっと聴く人すべてを魅了することでしょう。

ナクソスに
ログインしてアクセス!

「ツィゴイネルワイゼン」はCMやアニメ、フィギュアスケートのプログラム曲としても使用されることがあります。管弦楽伴奏つき独奏曲とピアノ伴奏版がありますので聞き比べて見るのもいいですね。気になったら是非ナクソスでご視聴ください♪



流しのヴァイオリン弾きにはなれなかった (スタッフ・U)

音楽とわたし

編集担当のひとこと

2021年ミュンヘン国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で市川市出身の岡本さんが優勝された。市民として誇らしく、感動をいただいた。ヴァイオリンにまつわる思い出を少々。出会いは市川市F小学校の授業。繊細で美しいその楽器は扱いが難しく思ったような音は出せなかったがピアノを辞めて熱中した(ピアノを辞めたかったのだ)。長い時を経て娘が同じF小学校の弦楽部へ入るのをきっかけに“四十の手習い!”とばかりに一緒に習い始めた。幼いころのリベンジと、どうしても弾きたい曲を胸に秘めて。が、またしても発表会のプレッシャーに耐えられずに早々に挫折。目標(発表会)のための努力(日々の練習)の積み重ねと云う鍛錬が全くできないダメな自分のままであった。演奏を続けている娘を通してオーケストラの魅力にはまり、今ではもっばら鑑賞する側である。満員の客席からブラボーの掛け声ができる以前の日々早く戻れますように。

まだ寒さは厳しいですが、寒い時こそ暖かい部屋でゆっくりとクラシック音楽と過ごしてみるのはいかがでしょうか。冬の寒さと奥深さを感じる曲を聞くもよし、春を待つ温かな曲を聞くもよし、担当のおすすめはチャイコフスキーの「冬の日の幻想」。美しいメロディーに癒されます。是非ナクソスでお楽しみください。(O)

